

御用藥所 信州上田東山堂製

御免社旗 せんののゆき

せんののゆき

六十四編

三十二編

實母散

本家

私力実母の長中をりおて年四丁目品グ
 之年未賣弘まより店多せなる心成り
 向ふふくうりうりうりうりうりうり
 中橋南傳馬 十葉堂孝輔製

新編九尾傳

當年之内 爲 永 春 水 作
 自初編至五編 梅 蝶 樓 國 自 更

初編六編會の管領持氏朝臣川須野小待倉よる本托り妖婦玉面が色々香の
 縁と二人の戀を深臺といふと評するも高禪の物語あり三篇持氏
 三篇八結城六朝十葉貞龍幸玉面の妖怪ありを味し編と一葉子結と云
 其處より黒龍立昇り九尾士の出現多しを味し編と一葉子結と云
 編中より尾性の雄一箇生とりて至る四篇五篇

門八13
號3732
卷6



七
子
子

移
化

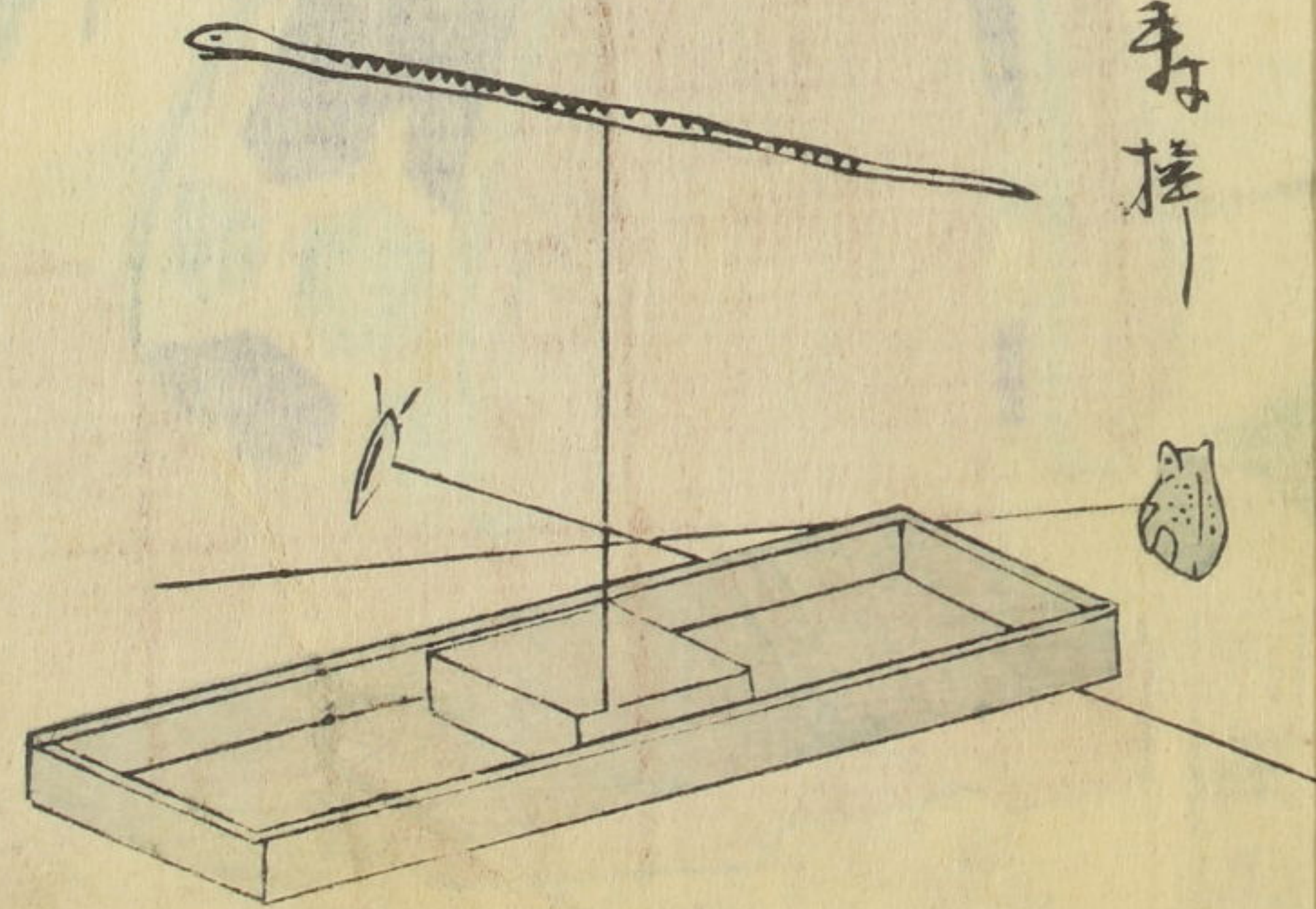
首飾
器

六
海

之
快

國
貞
運

書
吉
壽
梓





善王ハ十和の璞ク眼无云光輝を見老惡王ハ鉄炮九ク觸
 則ハ躰を損ふ善と惡との懸隔ハ三五夜の玉蟾と甲の丸い
 泥鼈めく菟翡翠玉ハ磨ても耀々結櫃形也由珊瑚珠ハ
 貴價一無瑕水精ハ希多如く此草子み出る人物惡人ハ
 惡人るるとと純粹の善人一人もは世態如此るると抑藿
 徴の首みおのていゝ有んと問屋中氣をのり面向不背の珠の如き
 何処より見ても親王と見立物造立て舞臺とも大まきせよと
 云由一理と政談を落を趣向の青磁もどる東の某ハ口画み
 露一此人後々本玉の眼鏡み玉と石とを見分る幾を今より
 看客ふも告そまると序文とを

慶應二寅年春刊行

柳亭種彦

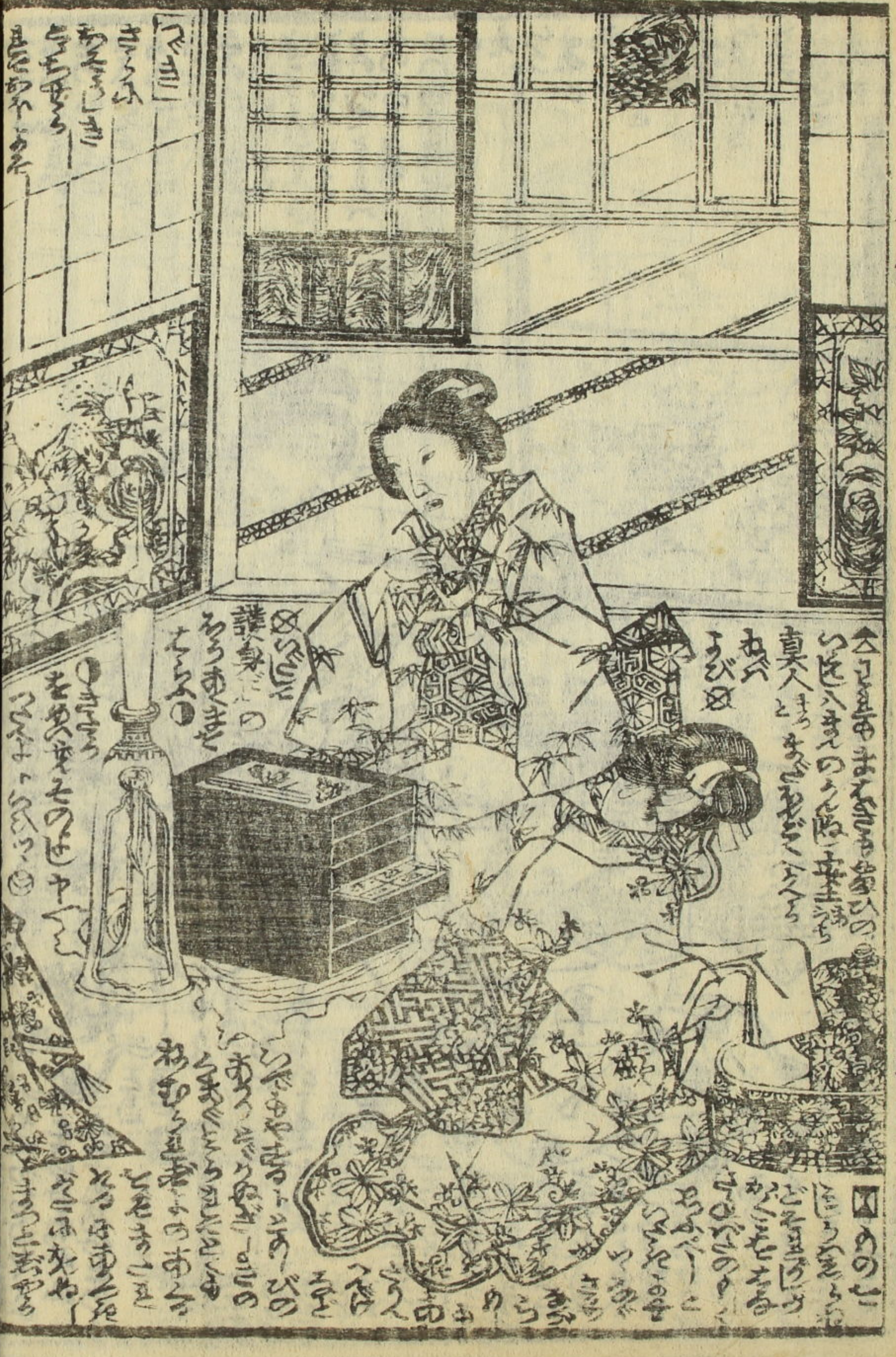
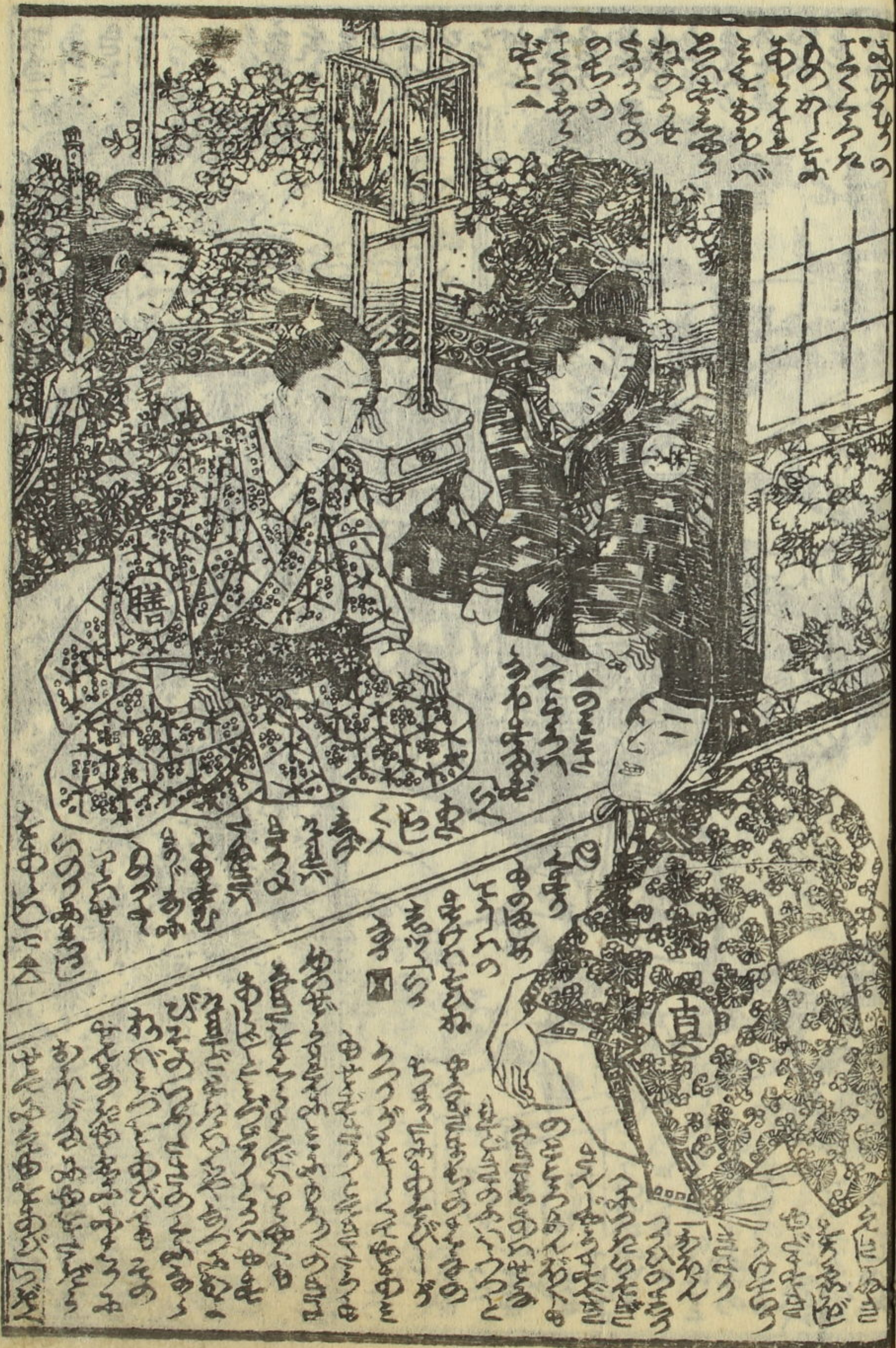


種彦
 柳亭
 六海下
 われ
 小次郎

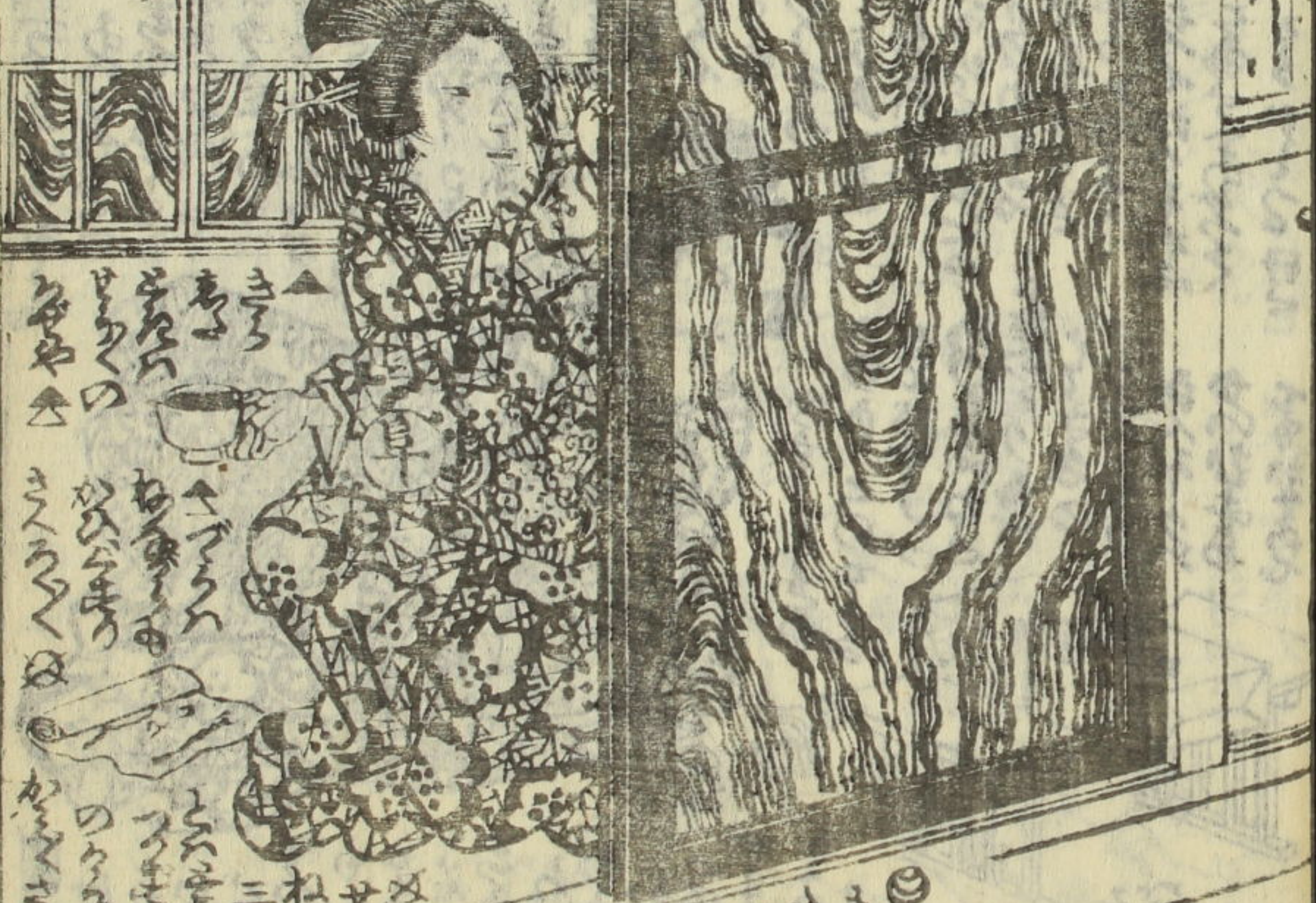


巻六

六郎

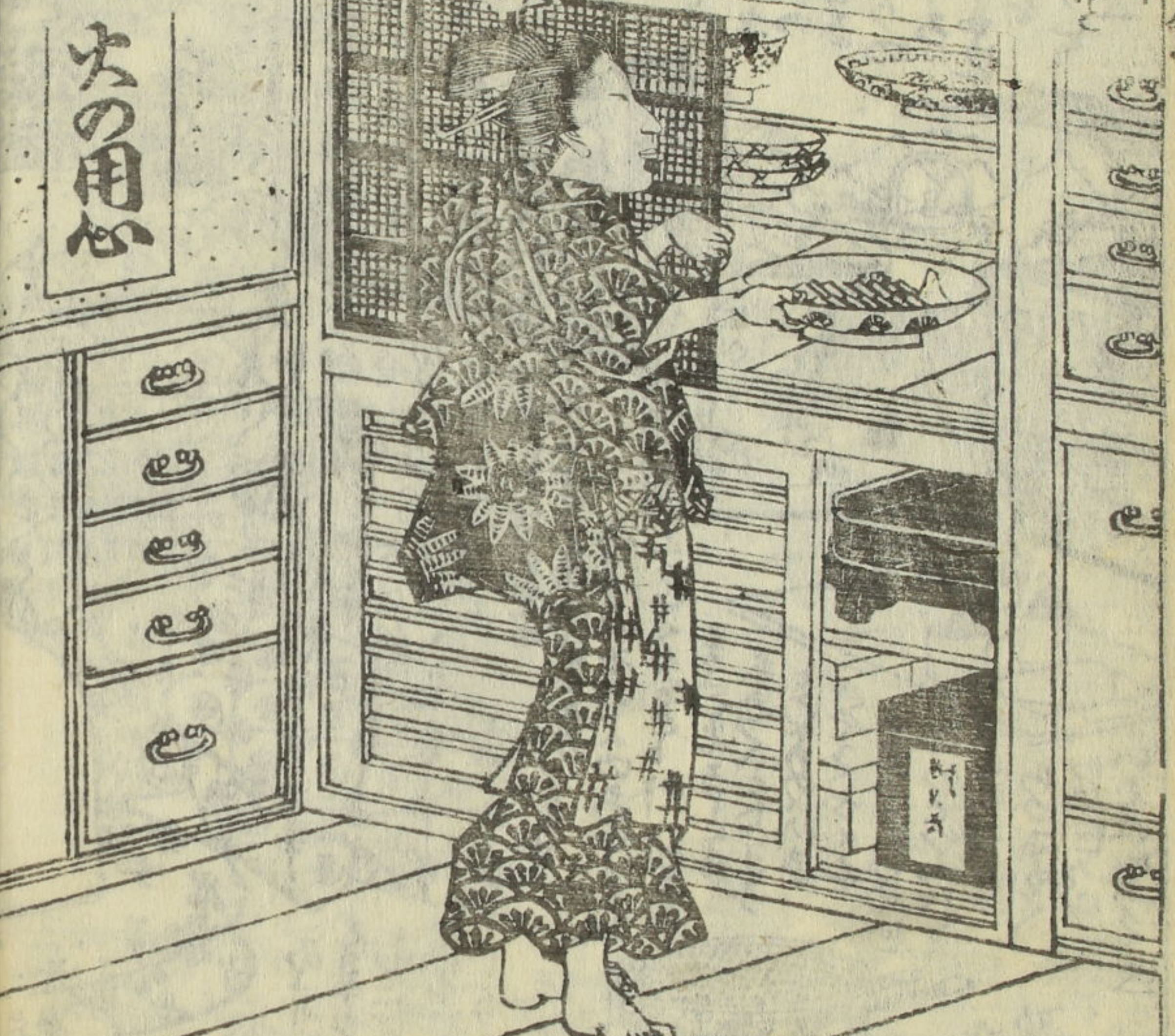


Handwritten text in the top left corner, likely a list or index of items.

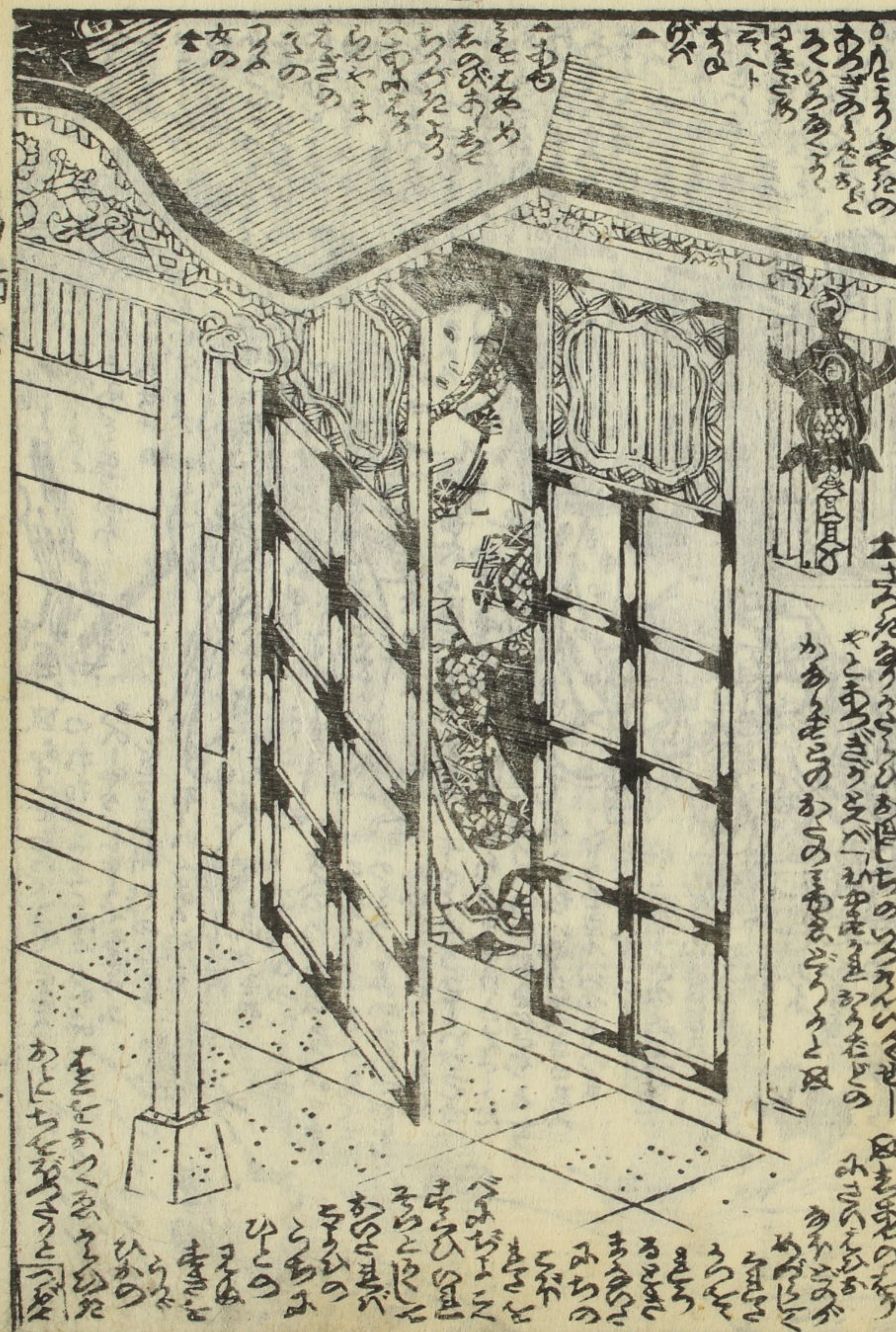


Handwritten text in the bottom left corner, possibly describing the items on the table or the scene.

Handwritten text in the top right corner, continuing the list or index.



Handwritten text in the bottom right corner, possibly describing the kitchen scene.

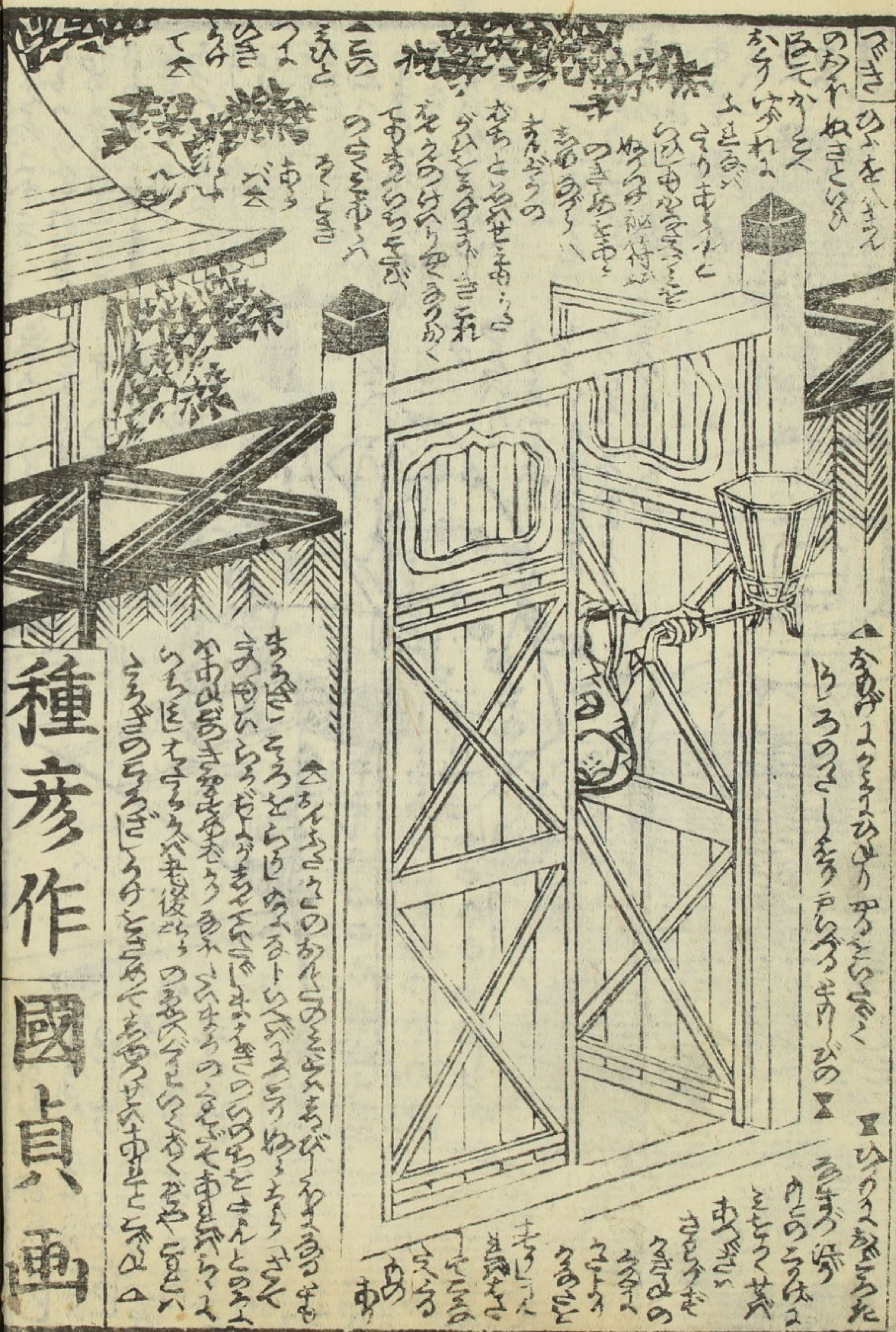


おんちやうきちの
あぢいさまを
うらやまう
おんちやうきちの
あぢいさまを
うらやまう
おんちやうきちの
あぢいさまを
うらやまう

おんちやうきちの
あぢいさまを
うらやまう

おんちやうきちの
あぢいさまを
うらやまう

おんちやうきちの
あぢいさまを
うらやまう



おんちやうきちの
あぢいさまを
うらやまう

種彦作 國貞画

おんちやうきちの
あぢいさまを
うらやまう



不動明王
 不動明王
 不動明王
 不動明王
 不動明王

不動明王
 不動明王

不動明王
 不動明王
 不動明王
 不動明王
 不動明王



不動明王
 不動明王
 不動明王
 不動明王
 不動明王

不動明王
 不動明王
 不動明王
 不動明王
 不動明王



世のあはれ
せめても
えけりし世も
こぼれぬ世も

かえりて
うらむるもの
うらむるもの



世のあはれ
せめても
えけりし世も
こぼれぬ世も

かえりて
うらむるもの
うらむるもの



大あまのまゝなるはあひま
 ちりのあまのまゝなるはあひま
 うまのあまのまゝなるはあひま
 うまのあまのまゝなるはあひま
 うまのあまのまゝなるはあひま

大あまのまゝなるはあひま
 ちりのあまのまゝなるはあひま
 うまのあまのまゝなるはあひま
 うまのあまのまゝなるはあひま
 うまのあまのまゝなるはあひま



大あまのまゝなるはあひま
 ちりのあまのまゝなるはあひま
 うまのあまのまゝなるはあひま
 うまのあまのまゝなるはあひま
 うまのあまのまゝなるはあひま

大あまのまゝなるはあひま
 ちりのあまのまゝなるはあひま
 うまのあまのまゝなるはあひま
 うまのあまのまゝなるはあひま
 うまのあまのまゝなるはあひま

カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ

▲ササササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ



カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ

カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ

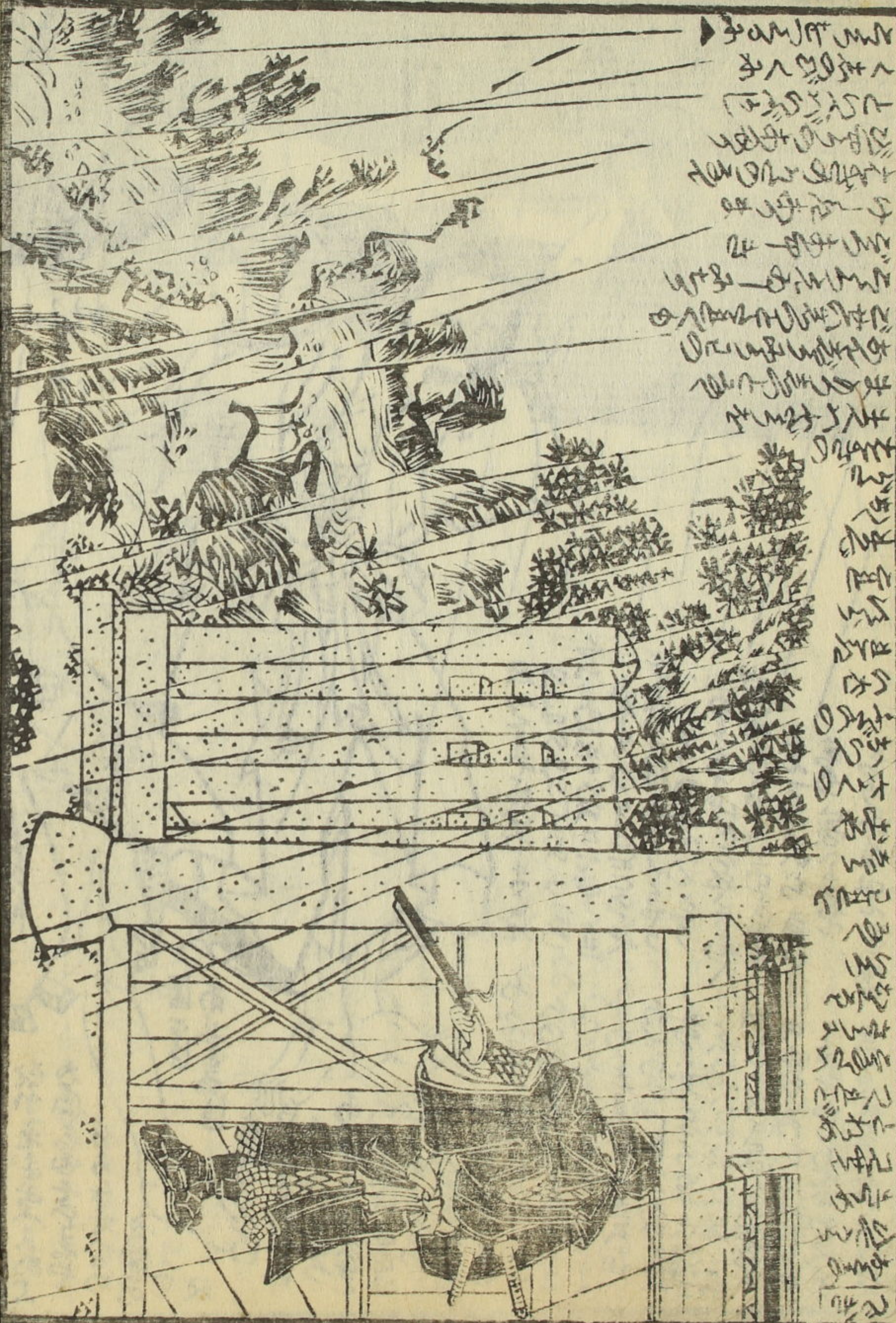


カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ
カクニササ

Handwritten text in the left margin, oriented vertically, including a small box at the top and bottom.



Handwritten text in the lower-left quadrant of the page, oriented vertically, appearing to be a list or notes.



Handwritten text in the right margin, oriented vertically, including a small box at the top and bottom.

種物類



國貞圖

七郎の葛飾譚

五編より
八編まで
柳亭種彦作
梅蝶樓國貞更

室町源氏胡蝶卷

八篇種彦作
十篇國貞更

筆海西國聞書

編種彦作
編國貞更

假名情談意睡會

四編如泉作
大毛國貞更

明徳黒面西福福

編種彦作
編國貞更

童謡妙々車

廿二編種彦作
廿一編國貞更

花封答口本草

十編種彦作
大毛國貞更

薄傳幻日記

編種彦作
編國貞更

大傳大の双紙

編種彦作
編國貞更

地本双紙問屋

鳥屋吉藏板



梅年